

# 日中両語における接続語句の対照研究

李 宗 禾

キーワード：接続語句，連接表現，テキスト，文間の論理関係，文脈の展開

## 1. はじめに

「接続語句」は文間の論理関係を保証する手段だとされている。しかし、あまり多用しすぎると、論理の流れが乱れてしまうことがある。とくに、接続詞の使用頻度が高い場合には、意味が二転、三転して、結果的に非常に読みづらい文章となってしまう恐れがある。従来の研究では、日本語学習者には接続詞を過剰に使用する傾向が見られるとし、また、李(2007)によれば、台湾人日本語学習者は日本語母語話者より接続詞の使用頻度が約3倍高く、使用傾向も異なる。その原因を追究するためには、学習者の母語である中国語のテキストを観察することが必要だと思われる。本稿では、テキストの日中対照研究という手法から日本語及び中国語の説明的な文章における接続語句の使用状況を考察する。主に明らかにしたい課題は、中国語のテキストにおける接続語句の「使用頻度」及び「使用類型」、という2項目である。

## 2. 考察資料

考察資料に使用したのは台湾で発行される月刊誌、『台湾光華雑誌』の文章である。『台湾光華雑誌』を選んだ理由は2つある。一つは、それが中国語と日本語の対訳がついていることで、日中テキストにおける結束性を維持するための言語形式の異同点を究明するためには最適であろうと思われることである。もう一つの理由は、その雑誌が1976年に発行されてからすでに30年を越え、しかも、一定の発行部数に達していて、社会的評価が高いと思われるからである。また、雑誌の内容としては、世界が関心を寄せる問題や、台湾の伝統・文化についての紹介など、説明的な文章が多いため、先行研究で扱っている研究資料のジャンルと一致すると言える。

実際使用した文章は2005年に発行された『台湾光華雑誌』12号分(一年間分)からランダムに一編ずつ選び出したものである。日中合わせて24編の文章を考察した。

### 3. 中国語のテキストにおける「文」

#### 3.1 両言語の文構造について

日本語と中国語は体系の異なる言語であり、音韻、文法、意味などさまざまなレベルで相違が見られる。文の構造や、テキストでの文の配列などにおいても、その言語独自の特性が存在する。文の構造面においては、従来の考察結果から母語話者は「連体節」を多用する傾向がある、ということがわかる。つまり、日本語の文には主述関係を持った文らしい表現で名詞部を修飾することが多い。これに対して、中国語の文は、水が流れるように進むことが特徴であり、重層構造をとる修飾関係があまり好まれず、短文を並べていく。次のような具体例が挙げられる（太字・下線は筆者による）。

例1 サイエンスパークは金のなる木という経済優先の思考は、弱者である農家を排斥し、農家の生活や農業の規律を乱すと批判する人もいる。（2005年2月号）

例1' 為什麼農民的水就該讓給園區使用呢？有人認為一味以園區為金母雞的經濟掛帥思惟，不但使得弱勢農民受到排擠，也嚴重破壞農民作息與農業生產的規律性。（2005年2月号）

例1のように、日本語（訳文）では「サイエンスパークは金のなる木」が先に現われたことによって、後の「経済優先の思考」を具体的に説明する。それを原文である中国語の「為什麼農民的水就該讓給園區使用呢？有人認為一味以園區為金母雞的經濟掛帥思惟」と比べてみると、連体修飾構造をとった表現の方には、1文で済むという文の経済性が考えられ、なおかつ、文と文の間の緊密な結びつきが窺える。

このように連体修飾構造を利用し、文章に緊張感を与えることが確認できる。しかし、中国語の方は修飾部の前に数多くの情報が先行するというような構造を取る文は、歌や詩の世界を除いて、不自然な文となってしまう可能性が極めて高い。それは、中国語には語形変化がなく、日本語と同じような連体修飾構造を取るとすれば、語と語の間にすべて中国語の「的」を用いてつなげなければならないからである。20年ほど前の台湾で一時話題となった歌の歌詞<sup>(1)</sup>を例として取り上げてみたい（太字・下線は筆者による）。

例2 穿過你的黑髮的我的手 穿過你的心情的我的眼 ……（略）

牽著我無助的雙手的你的手 照亮我灰暗的雙眼的你的眼 ……（略）

留不住你的身影的我的手 留不住你的背影的我的眼 ……（略）

この歌詞が話題となったのは、中国語の書きことば表現としては馴染みのない表現であるが、修辭学的観点から見れば斬新であり、新鮮な感じを与えたからではないかと思われる。しかし、短い

文の中で「的」を3回使用することは、混乱を招きやすく、結局焦点が外れてしまう可能性が高い。これは説明的な文章のジャンルでは適切な表現とは言いがたく、中国語の論理から言えば、非常に逸脱した文例である。

このように、中国語における連体節の構造は情報を数多く持ち込まない。台湾人学習者による日本語の文章で「連体節」の表出が少なかった理由は、母語である中国語の文構造の特徴からの影響と考えてよからう。

### 3.2 『台湾光華雑誌』の文章から見た文の区切り方

日中両言語の文章における文の区切り方も異なる。これを明らかにするために、まずそれぞれの文章の字数、文数の平均値を比較してみたい。

『台湾光華雑誌』の文章を字数、文数に分けて計量化してみると、同じ内容を表現するのに、中国語に比べて日本語の方が字数、文数が多い、ということがわかる。集計結果は、表1のとおりである。

表1 『台湾光華雑誌』における  
日中文章の平均字数及び文数

	日本語	中国語
字 数	669	530
文 数	13	9

字数の違いについては、次のような理由が考えられる。そもそも日本語には表音文字と表意文字二通りの文字体系が存在するので、文章に現われた文字を物理的に数えると、表意文字の使用が大多数を占める中国語と比べて、日本語の方が使用字数が多くなる。一方、文数の違いは、日中両言語の文章における文の区切り方の違いから生じたと考えられる。

まず、接続詞が文の中に出現する位置である。日本語の接続詞は文中に出現することもあるが、後文の文頭に来るのが一般的である。つまり、前文の句点「。」の後に続き、これで2文を用いて1つの論理関係を表すのである。しかし、中国語の接続詞の用法には、そういった制約がなく、むしろ文中に現われる方が多い。例3のようである（太字・下線は筆者による）。

例3 台湾の建築物におけるエネルギー効率を改善するために、政府はすでに「外殻の省エネ」を建築技術規範に取り入れている。しかし、現在は一部の政府機関の新ビル管理のみを対象としており、効果は充分ではない。(2005年11月号)

例3' 為改善臺灣建築能源效率不彰的問題，政府雖已將「外殼節能」納入建築技術規則把關，但對於耗電極大的空調和照明，目前只針對部份政府新大樓管理，致使節能效率有限。(2005年11月号)

これが、日本語の文数が中国語より多くなる一因と考えられる。

次に、中国語の文章における文脈の展開は、水が流れるように進むことが特徴であり、句点を打つまで何文かが続いて論理の展開を妨げることがない。一方、日本語の文章では、主語や、視点、または部分的な話題が変わると、文を切るのが原則である。よって、全体的な文数が多くなる。次のような例が挙げられる。

例4 自然条件は厳しく、産業構造も良くない。台湾の農家が所有する農地は平均1ヘクタールしかなく、規模が小さい上に土地の原価は東南アジアの20倍、人件費は10倍かかる。このように原価の高い農産物を海外に輸出するのは難しく、農家の人々は市場があると聞けば、それに飛びつく。台湾海峡対岸からは600本ものミサイルが台湾に向けられているにもかかわらず、大陸に市場があると聞けば輸出したいと思う。(2005年7月号)

例4' 自然条件差、産業結構面也不好，台灣農戶平均擁有的農地只有一公頃，不具備經濟規模，而土地成本是東南亞的20倍，人力成本則是10倍，這樣高的成本要想外銷何其困難，逼得農民哪裡有市場就往哪裡靠，連對岸的六百多顆飛彈都遏阻不了農民渴求登陸的心。(2005年7月号)

例4では、文脈は「自然条件及び産業構造」→「農家の所有地」→「輸出」というように進んでいくと見てよい。最初の文では「自然条件及び産業構造が良くない」という大きな話題を切り出し、次に、「自然条件」の例として「農家の所有地」の現状を取り上げ、「産業構造」の問題点として「輸出」に関する不利な条件を例にした。このように話題を変えるたびに新しい文をつくることにする。しかし、単純に形式から見れば、例4'が示すように、中国語の場合では1つの複文を使用して例4の日本語と同じような内容を表現し、この複文の中の短い文が互いに読点で繋がれていることがわかる。句点「。」を計算単位とする場合、これで1文と見られるので、中国語の文章における平均文数は日本語より少なくなる。

### 3.3 本稿における文単位の判定

これまで中国語の「文」について大まかに見てきた。中国語の文は次から次へと発展していくのに対して、日本語の文は前方に情報を持ち込むというところが異なる。よって、中国語の文は日本語の文よりはるかに長くなる。しかし、このような違いにもかかわらず、単に形式を判定基準にし、文の出発点から句点が打たれるところまでを1つの単位として計算し考察を行えば、中国語のテキストにおける文間の接続特徴や使用傾向などが見過ごされる危険がある。次のような例が挙げられる。

例5 ①台湾銀髮安養市場日漸蓬勃，產品也夠多元，老人可以各取所需。

②然而，設備，服務再好，還是無法取代親情，康明生活會館經理石剛弘指出，七十歲左右

的老人家或許還能一切自理，但對更高齡而無獨居能力的老人家而言，養老決定權往往操控在子女手上，迫於現實環境，部分老人家是在別無選擇下住進老人住宅，逢年過節，雖然會館也舉辦圍爐等活動，但要是子女沒有來探望或是接老人家回去團聚，他們仍難免會傷心，原先一對對住進來的老年夫妻，一但喪偶落單後，也會有淒涼的感覺。(2005年1月号)

句点を判定基準とすれば、例5が2文によって構成される一つのまとまりと見られ、また、この2文は、接続詞「然而」(しかし)によって繋がっている、というような安易な結果になってしまう。したがって、中国語のテキストにおける文の判定については、あらためて考えてみる必要がある。本稿では、意味に基づいて文を区切ることにする。具体的には次のようなやり方で行った。

- 例5' ①台湾銀髮安養市場日漸蓬勃，產品也夠多元，老人可以各取所需。  
②然而，設備，服務再好，還是無法取代親情，康明生活會館經理石剛弘指出，  
③七十歲左右的老人家或許還能一切自理，但對更高齡而無獨居能力的老人家而言，養老決定權往往操控在子女手上，迫於現實環境，部分老人家是在別無選擇下住進老人住宅，  
④逢年過節，雖然會館也舉辦圍爐等活動，但要是子女沒有來探望或是接老人家回去團聚，他們仍難免會傷心，  
⑤原先一對對住進來的老年夫妻，一但喪偶落單後，也會有淒涼的感覺。(2005年1月号)

2文によって構成された話しのまとまりを、例5'のように意味によって5文に区切ることができる。その結果をさらに日本語による対訳(例5'')と比較してみると、

- 例5'' ①台湾のシルバー市場はますます盛況となり、商品も多様化し、高齢者も選択肢が増えてきた。  
②しかし、設備やサービスがいくらよくても、親子の情には代えられないと康寧生活会館の石岡弘さんは話す。  
③70歳前後であれば生活を自分で切り盛りできるだろうが、さらに高齢となると1人住まいは難しくなり、そうなると決定権は子供に移ってしまう。  
④現実に迫られて、高齢者はほかに選択肢もないまま高齢者向け住宅に入らざるを得ない。  
⑤盆暮れになると、会館でも行事などがあるが、子供たちが訪ねてきてくれない高齢者は、やはり寂しい。  
⑥特に夫婦で入居した高齢者の1人が欠けてしまうと、孤独は深まる。(2005年1月号)

両者の文数がかかなり近づいていることがわかる。そのような文の新しい区切り方により、中国語のテキストにおける文間の接続表現の輪郭が鮮明になってくるのではないかと思われる。よって、本稿では上記のような方法を用い、文を再区分してみる。

文を再区分した結果、中国語の文章における平均文数は12文となり、日本語の平均文数13文と比較してかなり近い数値となっている。この判定のしかたに基づいて考察を行うこととする。

## 4. 考察結果及び分析

### 4.1 中国語のテキストにおける接続語句の種類

日本語の「接続語句」は中国語で「連詞」、または「関連詞語」と呼ばれている。現代中国語でよく使われている「連詞」について、周剛(2002:216-219)では次のように詳しく分類している。

表2 現代中国語における常用「連詞」

類 型	用 例
并列(並列)	和(と)一面…(…しながら…する)
连贯(連接・つなぐ)	于是(そこで・それで)
递进(添加)	不但(…だけでなく、さらに)况且(それに)
选择(選択)	不是…就是…(…でなければ、…である)或者(あるいは)
因果目的(因果関係・目的)	因此(だから)既然(…するからには)
转折(逆接)	不过(だが)但是(しかし)只是(ただ)
假设条件(仮定)	如果(もし…であれば)只要(…しさえすれば、…である)
让步(譲歩)	即使・就算(たとえ…でも)
取舍(取捨する)	宁可・与其(…するよりは、むしろ、…した方がいい)

\* ( )内は筆者による日本語の対照訳

これを日本語の「接続詞」の種類と合わせてみると、逆接を表す「转折」、順接を表す「因果目的」、添加を表す「递」など3つの種類が一致する。それ以外の種類は日本語の「接続助詞」か、「副詞」の用法に当たる。今回の考察では譲歩を表す「让步」と取捨を表す「取舍」という2つの種類に表出例が見当たらなかったため、この2つの種類は分類対象から除く。なお、次の節から各種類の表示は原則として日本語の用語に従うこととする。

### 4.2 接続語句の出現頻度

表3が示すように、中国語の文章における接続語句の表出例は日本語より多い。それをさらに下位分類したのが表4である。

表3 接続語句の出現頻度

	日本語	中国語
出現頻度	24%	31%

表4 日中両言語の文章における接続語句の分布の比較

	日本語			合計	中国語			合計
	①	②	③		①	②	③	
逆接	13	2	2	17	13	4	3	20
順接	2			2	2	3	3	8
添加	2	1	2	5	2	3	1	6
仮定	4		3	7	4	2		6
並列						1		1
選択	1			1	1	1		2
連接		4	1	5		2		2
合計	(22)	(7)	(8)	37	(22)	(16)	(7)	45

①の列は、両言語の文章とも「接続語句」を用いて文と文を結びつけた数である。例6と例6'のようである。(太字・下線は筆者による)

例6 台湾のシルバー市場はますます盛況となり、商品も多様化し、高齢者も選択肢が増えてきた。しかし、設備やサービスがいくらよくても、親子の情には代えられないと康寧生活会館の石岡弘さんは話す。(2005年1月号)

例6' 台湾銀髮安養市場日漸蓬勃，產品也夠多元，老人可以各取所需。然而，設備，服務再好，還是無法取代親情，(2005年1月号)

日本語の文では逆接を表す「しかし」を用い、中国語では同じく逆接を表す「然而」を使って表現している。①のグループはもっともきれいに対応しているタイプといってもよい。このような例は全部で22例である。

②のグループはもっとも注目に値する。②は当該言語の文章において、「接続語句」が使用されたが、対照言語には明示的な言語形式が用いられていない、というタイプである。つまり、日本語の文章で「接続語句」が使用されたが、中国語の文章では零記号である例は7例あり、逆の場合が16例あった、ということである。具体例を取り上げてみよう(太字・下線・記号は筆者による)。

例7 かつて、台湾は世界的テーマにあまり関心を抱いていなかったが、台湾大地震の際に、世界各国から救援に来てくれた民間組織の規模や能力を目の当たりにして以来、少しずつ変わってきた。(2005年10月号)

例7' 「臺灣民眾需要更寬廣的視野，去了解世界的需要，」台灣世界展望會會長杜明翰指出，過去臺灣對於全球議題不感興趣，φ直到921震災，臺灣見識到各國國際組織的規模和行動能力之後，這些年開始已有些轉變。(2005年10月号)

例7の日本語の文章では逆接を表す接続助詞「が」が使用されているが、例7'の中国語の文章ではそれにあたる接続語句が使用されていない。次の例8、例8'は逆の場合の例である（太字・下線・記号は筆者による）。

例8 φ地球上のほとんどの水源はすでに開発されており、その利用計画と管理は今までに増して複雑化している。(2005年2月号)

例8' 由於地球上未受汚染的水源大多數已被開發，未來水資源的規劃，開發與管理將比過去任何一個時代複雜得多。(2005年2月号)

この例では、中国語の文に順接を表す接続詞「由於」(…によって、…に起因する)が現われたのに対し、日本語の文においては、それに対応する明示的な言語形式がない。このようなタイプに当たる表出例は全部で16例が観察された。つまり、中国語のテキストの中で2文間の論理関係を「接続語句」によって表現せざるを得ない場合が日本語より多いのである。外国語の学習者はその目標言語によって何かを表現しようとする時に、とくに文章表現においては、母語の思考回路を介在させずに表現することは、ほとんどないであろう。台湾人の日本語学習者の母語である中国語という言葉において、「接続語句」の使用頻度が日本語より多いという結果は、学習者の日本語の作文で「接続語句」の過剰使用が観察されたという現象の裏付けとなるのではないであろうか。

最後に、表4の中で③と表示された列は、当該言語の文章において、「接続語句」が使用されたが、対照言語においては他の表現手段(副詞や、名詞、連語など)が用いられた、というタイプである。例9は日本語の文章で「接続語句」を使用し、例9'は中国語の文章で「連語」を使用した例である。例10、例10'はその逆の場合の例である（太字・下線は筆者による）。

例9 WTO加盟して以来、台湾の農産物貿易赤字は拡大の一途をたどっている。また、世界的な異常気象により、台湾でも早魃や水害や気温の異常が続き、農家が大きな打撃を受けている。(2005年7月号)

例9' 加入WTO前後，台灣農產進出口的逆差的確越來越擴大了，這是台灣在打壓下進入國際組織的無奈代價。這還不夠，全球氣候異常導致的早澇，冷熱失調，也讓農民身受其害。(2005年7月号)

ここの「連語」と見られる「這還不夠」を日本語に直訳すると、「これだけではなく」との意味である。次に例10、例10'を見よう。

例10 だがこの場合、養育費は支給されないため、受け入れ家庭に対し指導や監督がしにくく、実際の状況を把握し難いという難点がある。(2005年12月号)

例10' 但也因為是「親屬」，縣市政府多數都不支付寄養費用，也因而難以對受託親屬進行訓練或

監督，導致親屬寄養成了兒童保護安置的「黑洞」，品質難以評估。(2005年12月号)

これは中国語の文に順接関係を表す接続詞「因而」が使用されたのに対し、日本語の文には名詞である「ため」を用いて表現している。

このように、中国語のテキストで「接続語句」の使用が見られた個所は、日本語のテキストにおいては他の言語形式によって代行されることが観察された。よって、中国語のテキストにおける「接続語句」の使用頻度は日本語より高いということが言えよう。

### 4.3 接続語句の主な類型

ここでは再び表4を用いて検討していきたい。また、①、②、③と表示された列の意味を以下のとおりに再度まとめておく。

表4 日中両言語の文章における接続語句の分布の比較

	日本語			合計	中国語			合計
	①	②	③		①	②	③	
逆接	13	2	2	17	13	4	3	20
順接	2			2	2	3	3	8
添加	2	1	2	5	2	3	1	6
仮定	4		3	7	4	2		6
並列						1		1
選択	1			1	1	1		2
連接		4	1	5		2		2
合計	(22)	(7)	(8)	37	(22)	(16)	(7)	45

- ① 両言語の文章とも「接続語句」を用いて文と文を結びつける。
- ② 当該言語の文章においては、「接続語句」が使用されたが、対照言語には明示的な言語形式が用いられていない。
- ③ 当該言語の文章において、「接続語句」が使用されたが、対照言語においては、他の表現手段（副詞や、名詞、連語など）が用いられた。

日本語による対訳の文章では、「逆接型」、「仮定型」を表す論理関係の類型がそれぞれ全体の第1、第2位となっている。これは先行研究の考察で得た結果、つまり、日本語の説明的な文章における論理関係を担う代表的な要素として、「逆接型」および「添加型」の接続詞が挙げられる、という結果との間で食い違いがあるように見えるが、実はそうではない。これまでの研究は「接続詞」に絞って行われたものが殆どであり、本稿で取扱う範囲の中から、「仮定型」、「並列型」、「選択型」、「連接型」などの類型が除外とされている。そのため、本稿での考察結果で第3位である「添加型」が第2位となったのである。これで、表4の数値は、先行研究から得た示唆と一致していると言える。

一方、中国語の説明的な文章の場合では、どのような接続語句の類型がもっとも使用されているのであろうか。それは「逆接型」(20例)及び「順接型」(8例)である。また、表出例の数から見れば、第3位の「添加型」(6例)と第2位の「順接型」との間ではさほど差がない。これによって、中国語の説明的な文章でよく現われる論理関係の類型は「逆接型」と「順接型」である、といえよう。この結果を李(2007)の台湾人学習者による日本語の意見文で観察された結果と併せて見ると、それぞれの使用傾向の配列および表出率(%)は次のようである。なお、日本語母語話者の傾向を参考のため最下行に示しておく。

#### 『台湾光華雑誌』における説明的な文章

「逆接型」>「順接型」>「添加型」

(44)            (18)            (13)

#### 台湾人日本語学習者の意見文

「逆接型」>「順接型」>「添加型」>「補足型」>「対比型」・「同列型」

(39)            (26)            (24)            (5)            (3)            (3)

#### 日本語母語話者の意見文

「逆接型」>「添加型」>「順接型」>「対比型」>「同列型」

(65)            (17)            (11)            (5)            (1)

この結果から、学習者の意見文及び『台湾光華雑誌』における説明的な文章の上位3位の傾向が見事に一致することがわかる。さらに、表出例の数の分布においても近い傾向が見られる。このことから、学習者は母語によって書く習慣をそのまま日本語の文章に持ち込んだ可能性が十分考えられる。

## 5. ま と め

本稿では中国語のテキストを「接続語句」から考察を加え、先行研究で観察された台湾人日本語学習者による「接続語句」の過剰使用という言語現象が起きた理由について探ってみた。学習者の文章で「接続詞」が過剰使用された理由は、中国語の文章における「接続語句」の必要性が高いからであろう。また、母語話者の文章における「接続詞」の使用傾向と食い違った理由も、学習者の母語である中国語の文章表現の習慣からの影響ではないかと思われる。

#### 〈注〉

(1) 台湾・羅大佑という歌手による詞である。

参考文献

日本語

- 市川 孝 (1978) 『国語教育のための文章論概説』 教育出版
- 伊藤俊一・阿部純一 (1991) 「接続詞の機能と必要性」 『The Japanese Journal of Psychology』 Vol. 62, No. 5, pp. 316-323
- 佐久間まゆみ (1987) 「段落の接続と接続語句」 『日本語学』 9月号, 明治書院, pp. 46-55
- 佐藤恭子 (1990) 「接続表現の日英比較」 『ことばの饗宴 — 笈壽雄教授還暦記念論集』 くろしお出版, pp. 551-562
- 西由美子 (1999) 「日英語の新聞社説における接続表現 — 文の接続をめぐって —」 『言語文化と日本語教育』 15号, お茶の水女子大学日本言語文化学会, pp. 24-36
- 李宗禾 (2007) 「台湾人日本語学習者の作文における接続語句の特徴 — 日本語母語話者との比較を通して —」 『2007年日語教学国際会議論文集』 東呉大学, pp. 249-262

中国語

- 胡壮麟 (1998) 《语篇的衔接语连贯》 上海外语教育出版社
- 刘辰诞 (1999) 《教学篇章语言学》 上海外语教育出版社
- 史有为 (2004) 《语篇、语篇法则和语篇教学 — 中国语教育学研究之五》 明海大学大学院应用言语学研究科 语要 No. 6 明海大学
- (2004) 《汉语语篇连贯性问题概析》 修辞学习二〇〇四年第五期 (总第 125 期) 复旦大学出版社
- 周 刚 (2002) 《连词与相关问题》 安徽教育出版社

資料

- 『台湾光華雜誌』 2005.1 ~ 2005.12 光華畫報雜誌社